



「私」を主語に

ちょっと遅くなったが、あけましておめでとう。年越しと新年はどうだったろう？

申し込んだのに参加できなかった人には本当に申し訳ないが、年末のスキー教室は本当に楽しかった。昨年の教室は全日吹雪で大変だったと聞いていたが、今年は、初日の午後こそ多少吹雪いたものの、一番上達する二日目は晴天、頂上アタックの三日目はほどよい曇り空、そして、雪降る中でのファイアも印象的で、その雪が積もった四日目は、打ってかわった晴天のもと、新雪の上でのデモンストレーションと、絶好のコンディションに恵まれたと言えるだろう。これも誰かさんの日ごろの行いのたまものか（笑）。

ところが、家に帰ってからは珍しく風邪（ノロ？）で寝込むことになり、毎年恒例の大雪日の夜中の初詣も、我が家で開く家族の集まりも中止という新年のスタートになってしまった。まあ、三が日は飲んだくれてるので、内容のない日々を過ごしたという点では、大差ないといえば大差ないのだが、普段離れて生活している親戚一家と顔を合わせられなかったのはちょっと残念であった。

*

ところで、諸君の「今年の抱負」は何だろう？ 当然何か考えたことと思うが、あとで書いてもらうのもう一度思い浮かべておくこと。ちなみに私は

「(色々な意味で) 現状維持！」

といったところか（笑）。髪の毛の数を少なくしないとか、体重計の数字を増やさないとか、尿酸値を上げないとか、まあそういうこ

とだ（何となく寂しい気もするなあ…）。

*

5日の朝日新聞の社説のタイトルは、「民主主義を考える―「私たち」を政治の主語に」である。一部を簡単に引用すると、

政治はサービス産業で、私たちは顧客。不満なら業者（政党）を代えればいい―。

そんな感覚なら、幻滅を繰り返すだけだ。少子高齢化が進むいまの日本。だれが政権を担っても、満足なサービスを提供し続けるのは難しいのだから。

だいいち、市民は客なのか。

市民は陳情し、政治家は予算を引き出す。

そんな関係を、ともに課題解決にとりくむ仲間に変えよう。

この記事は政治の話をしているのだが、「政治」を「学校」に、「業者（政党）」を「先生」に、そして「私たち」「市民」を君たち自身に置き換えて考えてみたらどうだろう？

このクラスには成績が厳しい人もいるし、部活その他で何となくうまくいっていないと感じている人もいることだろう。しかし、学校が、あるいは先生が何かサービスしてくれるものと期待しているだけでは、その閉塞的な状況を変えていくことはできないに違いない。自分にできることは何なのか、自分がしなければならぬことは何なのか、そこをしっかりと見極めて、まずは「私」が主語になることを考えた時に、はじめて未来が見えてくるのではないだろうか。自分を主語にして考えること、それを年頭の一言として皆に伝えておきたいと思う。